

【数字を読み解く】 マイナス 24.7%
～ 7月の大分県における宿泊者数の 2019 年比伸び率～
<2022/9/2 大分合同新聞掲載>

数字は、大分県が毎月公表する「観光統計調査」にある、7月の大分県における延べ宿泊者数の 2019 年比伸び率（速報値）だ。

本調査は、行政などの観光振興戦略や観光事業者らのマーケティング活動に役立つことを目的に大分県が実施しており、宿泊者数と有料観光施設の入場客数が毎月公表されている。

宿泊者数については、従業員数 10 人以上の全宿泊施設（22 年 1 月時点で 187 施設）、主要有料観光施設は 30 施設がそれぞれ対象となっている。なお「速報値」は回収率が低いため、調査年の翌年 7 月ごろに公表される「確報値」とは差が出る可能性がある点には留意が必要である。

大分県における 7 月の延べ宿泊者数は 28 万 5314 人と、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった 19 年対比マイナス 24.7%となった。7 月以降の感染症急拡大（いわゆる第 7 波）の下でも、おおむね 6 月（同マイナス 23.8%）並みのマイナス幅となった。

宿泊施設からは「感染症第 7 波の下でも予約のキャンセルは限定的にとどまり、コロナ禍前には届かないものの、夏休みシーズンらしいにぎわいとなった」との声が聞かれる一方「感染症第 7 波がなければ、宿泊者数はもっと伸びた」として、早期の感染収束に期待する施設も散見される。

今後も、県内および全国の感染者数の動向と、それが家計の消費マインドなどに与える影響について、注視していきたい。（日本銀行大分支店）